

岩石學總論及び各論に關しては

- (1) Rosenbusch: Elemente der Gesteine (1910) (1922)
 - (2) Hach: Textbook of Petrology (I—II) (1914)
 - (3) Iddings: Igneous Rocks (I—II) (1920)
- 實驗岩石學に關しては
- (1) Johansen: Manual of Petrographic Methods (1918)
 - (2) Holmes: Petrographic Methods and Calculations (1919)
 - (3) Rosenbusch: Mikroskopische Physiographie der Mineralien und Gesteine (I—IV) (1921—1923)
 - (4) Iddings: Rock Minerals (1911)
 - (5) Johansen: Essentials for the Microscopical Determination of Rock-forming Minerals and Rocks (1922)
 - (6) Milner: Introduction to Sedimentary Petrography (1922)
 - (7) Lueck: Tabellen zur Gesteinskunde (1921)

編輯便り

□ 讀書を考察と深思との時になりました。幾らか考へさせられる様な記事の多い「地球」を出したく思ひましたが、未だ編輯同人の或者は遠い旅から歸つて來なかつたり、或は夏の活躍の跡で休養の時が欲しかつたりしたので、讀書慾に燃れてゐる方々の御満足を買ひ得ないのは甚だ残念なことであります。十一月號には此の期待を満したく、一層努力します。

□ 第二巻初頭の温泉號はそれが贅澤なところも考へられる遊山に關係を持つたものであるにも係らず、江湖の賞費を博したことは地球學界に取りましては地球の民衆化に一步を進め得た。

云ふ點で自ら慶賀して居る次第であります。第三巻の一號即ち明年の一月號も亦特に「海岸號」とし倍大の「地球」を發刊する豫定であります。海岸の自然地學的研究を骨子として之に添ふるに海岸を彩る動植物の生息進んでは人文と海岸との交綏に關する記事を掲げたいと思ひます。是等に關する學團員の御研究や寫眞の御投稿を切に希望します。御投稿の期日は十一月十五日締切と致します。

□ 質疑應答に掲ぐべき御質問が學團員のみならず團員外の地球購讀者から殺到し現に編輯者の机上には質疑の端書や手紙が山積されて居ります。然し其の多數は誌上で御答へすべく餘りに局地的であつたり或はあまりに周知の事であつたり致します。それでかゝる質疑は質問の方に直接に御返答を出したいと思ふのであります。處が質疑の多くは御宿所及び御姓名のないものが少なくありません。かういふ御質疑に對しては終に應答の手がないことになり質疑者の意にそふことが不可能となります。段以上の理由で質疑者は必ず住所姓名を明記されることを規定したいと思います。猶ほ直接回答の便を計つて往復端書を御用ひになることを望みます。實は當學團は現在に於ては何等の資金をも有せざる無産團體であります。所有するものは唯地學を民衆化し、この面白い學問を多くの方が理解されて、職業以外金銭以外、所謂生計以外に喜びの樂土を我が「地球」上に御獲得になるのを望む耿耿の心のみであります。我が「地球」が一舉して日本地學界を風靡したのも是であるが爲めであると考へられます。